

平成 26 年度

# 学校教育指導の重点

「成果と課題改善のポイント」編

平成 27 年 1 月 30 日

福島県教育庁県中教育事務所学校教育課

## 目次

1	学校教育指導の重点の取組	1
2	特別支援教育	3
3	幼稚園教育	4
4	小中学校教育	5
(1) 各教科等		
①	国語	5
②	社会	5
③	算数・数学	6
④	理科	6
⑤	生活	7
⑥	音楽	7
⑦	図画工作・美術	8
⑧	体育、保健体育	8
⑨	家庭、技術・家庭	9
⑩	外国語（英語）	9
⑪	道徳	10
⑫	外国語活動	10
⑬	総合的な学習の時間	11
⑭	特別活動	11
(2) 各種教育		
①	生徒指導	12
②	キャリア教育	12
③	図書館教育	13
④	人権教育	13
⑤	環境教育	14
⑥	情報教育	14
⑦	国際理解教育	15
⑧	へき地・小規模学校教育	15
⑨	健康教育	16
⑩	防災教育	16
⑪	放射線教育	17

## 1 学校教育指導の重点の取組 (学校訪問を通して見える成果と課題改善のポイント)

「平成26年度 県中教育事務所 学校教育指導の重点（全体構想図）」につきましては、学校訪問等でその趣旨や重点を踏まえた取組の説明に努めてまいりました。ここでは、その中の「『確かな学力』の向上」につきまして、学校訪問を通して見えてきた先生方の取組の成果と課題改善のためのポイントについて概観します。

また9月に開催された「教育事務所学校教育課長等会議、数学担当指導主事学力向上対策会議」において示された共通実践事項についても確認します。

### （1）域内の取組《学校訪問を通して ○成果 ◆課題》

#### ア 授業の改善と充実

- 全国学力・学習状況調査、各種調査に基づく授業改善
  - ・ 「学力調査分析支援ツール」の活用
- 学び合う授業の実践・言語活動の充実
  - ・ 「学習の手引き」等の活用
- 定着確認シートの活用による基礎的・基本的内容の定着
  - ・ 教育課程への位置付けによる授業での活用、シート活用後の追指導等
- 思考力・判断力・表現力等の向上を目指した授業実践
- 授業改善チェックシートによる授業評価と改善
- 小中連携によるつなぐ教育の充実
- 少人数のよさを生かした学習活動
- 授業と家庭学習との連動を図った学習
- I C T機器や視聴覚教材の効果的活用
- 授業研究による現職教育の充実
  - ◆ 少人数指導の積極的導入（習熟度別指導の導入）
  - ◆ 授業スタイル（教師主導型から児童・生徒主体の授業へ）の質的転換
  - ◆ 言語活動の充実（各教科指導へ意識的に位置付けを図る）
    - ・ 児童・生徒対教師のやりとりから、児童・生徒同士が目的を明確にして話合いができる働きかけの工夫
  - ◆ 小中の接続を意識した学習活動
    - ・ 学習内容の重複回避を考慮した系統性の確認と学習指導
  - ◆ 教材研究と週案の活用（確実な時数管理と内容管理）
  - ◆ 各種指導資料の有効活用（ふくしま道徳指導資料集、理科指導プラン、福島県算数科・数学科指導事例集、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例など）
  - ◆ 定着確認シートの活用
    - ・ 児童生徒の実態把握と教師の授業改善のための活用
  - ◆ 指導技術の伝承（校内授業研究・校外研修会を通して教師が学び合う）
  - ◆ 習熟度別に応じた指導
    - ・ 問題を早く解決した児童・生徒への配慮（友達に伝える、難易度の高い問題に挑戦するなど）
    - ・ 支援が必要な児童・生徒への配慮（実態の捉えによる支援計画作成）
  - ◆ ユニバーサルデザインを意識した授業づくり

#### イ 日常の学習活動の工夫・改善

- 基礎学力向上タイムの位置付け（朝の時間の有効活用）
  - ・ 定着確認シートの有効活用
- 校内学習コンクール（漢字・計算・英単語）や漢検・英検等各種検定への挑戦による学習意識の高揚
- 学習環境整備の充実
- 読書活動の充実、新聞の活用（NIEの実践）
- 管理職による定期的な授業参観と具体的指導による時数管理と内容管理

- ◆ 学習サイクルの確立による授業充実と基礎学力の定着
- ウ 家庭・地域との連携
  - 「学習の手引き」等の活用による家庭学習の習慣化（定着確認シートの有効活用等）
  - ノーメディアデーの実践
  - 教科指導等における地域人材の活用
  - 生活アンケートによる家庭生活の意識化
  - 学級・学年・学校便りによる情報提供と共有
- ◆ 中学校区における更なる課題の明確化・共有化と連携

## （2）学力向上対策会議を踏まえた共通実践事項

「教育事務所学校教育課長等会議、数学担当指導主事学力向上対策会議」（平成26年9月開催）で示されたものです。

- 1 年間指導計画の確実な実施
  - 管理職等による学習進度の確認と指導
- 2 各学校における課題の確認・洗い出しと重点化
  - 学力調査分析支援ツールの活用
- 3 少人数指導の充実・改善
  - 少人数指導の活用
  - 個に応じた指導の充実
- 4 授業改善
  - 学習指導要領に基づいた、適切なねらいの設定
  - 目的を明確にした話し合い活動、学習形態の工夫
  - 書く活動の重視（ノート指導の充実）
  - まとめの時間の確保
  - 児童生徒全員の評価の確実な実施
  - 言語活動を生かした学び合いの充実
  - I C T 機器の活用
- ☆ 教職員の資質向上に生きる校内研修の充実
- 5 定着確認シート等の活用
- 6 指導事例集、授業アイデア例の活用
- 7 学校図書館の有効活用
- 8 家庭との連携
  - 家庭学習内容の質的改善
  - 生活習慣の改善・確立（ノーメディアデーの設定等）

以下に特別支援教育、幼稚園教育、小中学校教育それぞれの成果と課題改善のポイントを掲載しました。各校における取組を振り返り、今後の実践に役立てていただくとともに、次年度教育課程編成にあたっての視点の一つとしてご参考にしていただければ幸いです。

## 1 特別支援教育

### 特別支援教育（幼・小・中）

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
<p><b>【交流及び共同学習】</b></p> <p>1 障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒相互の触れ合いを通して、豊かな人間性をはぐくむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校では、交流及び共同学習を教育課程上に位置付けて計画的、組織的に授業が展開されていました。</li> <li>○ 児童生徒の実態に応じて、障がいある児童生徒の活躍できる場面を想定した意図的な発問の精選や発表の場が用意されていました。</li> <li>◆ 授業のねらいを焦点化し、授業者間で授業のねらいを共有化し、役割分担を明確にした授業を展開する必要があります。また、支援員の活用においても同じことが言えます。</li> </ul>
<p><b>【通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする幼児児童生徒の教育】</b></p> <p>1 校（園）内の支援体制を整備し、全教職員で支援する。</p> <p>2 「個別の教育支援計画」を作成・活用して学校、家庭、地域及び医療等関係機関との連携を図る。</p> <p>3 「個別の指導計画」等を作成・活用した個に応じた指導を進めるとともに、指導法の工夫を図る。</p> <p>4 障がいの特性と生徒指導上の問題との関連を考慮した指導の工夫を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校（園）内で特別支援教育コーディネーターが中心となって、校内委員会、ケース会議等の開催が多く設定されています。関係機関を交えたケース会議を設定する学校も増えてきています。</li> <li>◆ 保護者との教育相談に課題があり、学校の様子等の説明や学校側の一方的な指導方針についての説明・説得となり、トラブルになるケースもありました。保護者や本人の思いや願いを大切にしながら、本人への支援について合意形成を目指した教育相談等の研修が必要です。</li> <li>○ 校内委員会やケース会議などが活発に開催され、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成率も上がってきてています。また、教員間で幼児、児童、生徒の実態について共通理解が進んでいます。</li> <li>◆ 校内委員会やケース会議で幼児、児童、生徒の「できないこと、苦手なこと」が話題になることが多く、対症療法的な支援策になってしまふ傾向にあります。幼児、児童、生徒の立場に立った視点での話合いになるような工夫をし、ケース会議の進め方等の校内研修を実施し、幼児、児童、生徒の「できること、得意なこと」を考慮した支援策を検討することが必要です。</li> </ul>
<p><b>【特別支援学級・通級指導教室】</b></p> <p>児童生徒の障がいの多様化を考慮し、一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、それに基づいた指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各校では、子どもの特性に応じた教室環境や教材教具の工夫が見られ、個に応じた授業が多く展開されました。</li> <li>◆ 児童生徒の障がいの多様性や教育的ニーズ、科目のねらいなどを考慮した学習活動・内容となっているかを確認するとともに、そこで必要となる力を確認し、効果的なタイミングで支援が行われるよう授業をデザインする必要があります。</li> </ul>

### 3 幼稚園教育

#### 幼稚園教育

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
1 幼児が環境に主体的にかかわり、発達の時期にふさわしい生活が展開できるよう、長期的見通しをもつた指導計画を作成する。	○ 幼児や地域の実態、今までの経験を考慮し、生活や発達の連續性を踏まえた特色のある指導計画が作成されました。 ◆ 小学校との連続性を踏まえるとともに、目指す幼児像を明確にした上で、幼小相互の教育活動をつなぐ教育課程や指導計画について、具体化していくことが重要です。
2 一人一人の活動の場面に応じて、教師が様々な役割を果たし、幼児の主体的な活動が確保されるような保育の展開に努める。	○ 教師が、幼児一人一人の思いに寄り添い、「一緒にする、ほめる、共感する、見守る」など様々な役割を果たしていました。また、教師は幼児にとって大切な人的環境であることを意識しながら幼児と関わる姿が多く見られました。 ◆ 幼児が、共同して遊んだり、葛藤やつまずきを経験した際に、解決までの筋道を教師が示すのではなく、幼児自身または幼児同士が考え解決できるような環境の構成をする等、更なる工夫が必要です。
3 幼児の育ちつつある面やよさに目を向けた評価を行う。	○ 日々の保育から幼児の様子を多面的・継続的に捉え、丁寧な記録を基に保育の充実や改善が図られていました。 ◆ 記録を生かして教師が日常的に関わりながら、幼児一人一人の特性に目を向け、多面的な捉えをすることが重要です。

## 4 小中学校教育 (1) 各教科等

### ① 国 語 (小・中)

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
1 小・中学校9年間の目標及び内容の系統性を十分に踏まえるとともに、学校や学年の児童生徒の実態に応じた指導計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒とともに作成した学習計画表を活用することで課題解決の見通しをもち、意欲的に学習活動に取り組む授業実践が見られました。</li> <li>◆ 単元で身に付けさせたい力を明確にした指導計画や評価計画を工夫したり、中学校区を中心に目の前の児童生徒の実態を踏まえた9年間のスパンの学力向上プラン等を作成したりするなど、実効性ある小中連携を推進していく必要があります。</li> </ul>
2 児童生徒一人一人が日常生活(社会生活)に必要な国語の能力の基礎を確実に身に付けることができるよう指導方法を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常生活において「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」を位置付け、その活動と国語の授業における学びとの結び付きを意識させた取組が見られました。</li> <li>◆ 教師も児童生徒も、学習活動の目的と意図を明確に理解し、日常生活における国語の能力と授業との結び付きを意識しながら進めていく必要があります。</li> </ul>
3 児童生徒の一人一人のよさや可能性を伸ばし、言語意識を高める評価を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の考えや発言を生かした課題設定やまとめを行っている授業が多く見られました。</li> <li>◆ ねらいの明確化、ねらいとまとめの整合性、まとめの時間の確保、指導と評価の一体化、各段階に合った意味付け等の視点で授業を見直すことが重要です。</li> </ul>

### ② 社 会 (小・中)

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
1 (小) 主体的に社会的事象の意味を追究する中で、基礎的・基本的な内容を身に付けることができるよう指導計画を改善する。 (中) 各分野間の関連を図り、学校の実態に即して適切な指導計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ニュースなどで話題になっている具体的な事例や身近な地域素材を取り上げるなど、児童生徒の興味関心を高め、主体的な学習に導く工夫がなされました。</li> <li>◆ 学習指導要領に基づき、指導内容の精選化・重点化を図り基礎的・基本的な内容を身に付けさせるとともに、児童生徒が課題意識を持続させながら主体的に学んでいくことができるよう、単元を貫く課題を設定し、単元の再構成も含めた指導計画に改善していくことが望まれます。</li> </ul>
2 学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を工夫して、主体的な学習を一層推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 根拠を明確にして考えさせる・話合いをさせるなどの活動を意図的に設定し、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等を養っていくこうと工夫している授業が多く見られました。</li> <li>◆ 教師と児童生徒のやり取りに終始することなく、ねらいを達成するための手段として言語活動を設定する必要があります。また、課題設定、調べ学習に時間をかけ過ぎず、まとめの時間や振り返りの時間を確保し、主体的な学習につなげていくことが大切です。</li> </ul>
3 評価の趣旨を踏まえて、児童生徒のよさや可能性を積極的に見いだし、それらを伸ばす評価を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元計画の中に4観点を適切に位置付けた評価計画が見られました。</li> <li>◆ どんな姿がねらいを達成できたことになるのかが分かる焦点化された評価をすることにより、目標・指導・評価の一体化を図っていくことが必要です。</li> </ul>

### ③ 算数・数学

指導の重点	「成果」(○) と 「課題改善のポイント」(◆)
1 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、数学的な見方や考え方の育成を図るために、指導計画を改善する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 興味・関心を高める教材提示、既習事項を基に解決できる課題設定、個に応じた指導の手立ての明確化等、児童生徒の実態や系統性を踏まえた授業が展開されています。</li> <li>◆ 単元全体を通して「教える」内容と「考えさせる」内容を精選し、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを図るとともに、児童生徒の実態に応じた単元及び年間指導計画の改善が重要です。</li> </ul>
2 主体的な学習を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、数学的な見方や考え方の育成を図るために、指導の工夫改善に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な考え方で解くことができる課題を工夫し、ペアやグループ、全体など様々な形態で説明する場を設定した取組が多く見られました。</li> <li>○ 「どうして」「どうやって」などの問い合わせにより、児童生徒の発言の根拠や考え方を深く追究させようとする実践が見られました。</li> <li>◆ 教師による説明をできる限り精選し、児童生徒から言葉を引き出す発問を工夫したり、話合いをコーディネートする教師の役割を意識したりすることが大切です。</li> </ul>
3 よさや可能性を見いだし、伸ばす評価を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己評価、算数日記の日常化を図り、一人一人の学習状況を把握し、評価する取組が多く見られました。</li> <li>◆ 定着確認シートや全国学力・学習状況調査問題などを活用した、より客観的な評価の在り方についての工夫・改善が望されます。</li> </ul>

### ④ 理科(小・中)

指導の重点	「成果」(○) と 「課題改善のポイント」(◆)
1 観察、実験に基づく主体的な活動を重視した指導計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観察・実験を取り入れた授業が多く見られました。特に、少人数での観察や実験の場を設定することにより、器具操作技能の定着を図る工夫が見られ、指導力向上を目指す教師の意欲が感じられました。</li> <li>◆ 児童生徒の科学的な見方や考え方を基に思考力・判断力・表現力の育成を目指し、言語活動の充実を図ることが課題です。</li> </ul>
2 問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方を養うための指導法の工夫に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実験しながら結果を数値化したり、得られたデータを表やグラフに整理したりする児童生徒の姿が見られました。</li> <li>◆ 観察・実験に多くの時間を要してしまい、得られた結果を考察する時間が不足する授業が見られました。結果を分析して解釈し、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化する等、言語活動の充実に向けた指導の工夫が必要です。</li> </ul>
3 よさや可能性を積極的に見いだし、伸ばす評価を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノートやワークシートには、観察・実験の記録だけでなく、キーワードを用いたまとめや感想等を記入させる授業が多く見られるようになってきました。</li> <li>◆ 科学的思考力・表現力の評価について、児童生徒のどのような姿や記述等を評価対象とすればよいかを明確にする必要があります。</li> </ul>

## ⑤ 生 活

指導の重点	「成果」(○) と 「課題改善のポイント」(◆)
1 児童の自ら考え判断し決定する資質や能力が育つよう、2年間を見通した指導計画に改善する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域や学校、児童の実態を生かした特色ある単元・年間指導計画や多様な人々との触れ合い、繰り返し活動できる場の設定など単元構成を工夫した計画が見られました。</li> <li>◆ 国語科における「話すこと・聞くこと」や「書くこと」など他教科の内容を合わせ生活科を核とした単元構成をさらに工夫するとともに、合科的・関連的な指導の一層の充実を図る必要があります。</li> </ul>
2 児童が対象とのやりとりを通して、よりよく課題を解決することができるような学習の展開を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 繰り返しの活動や余裕のある時間配分により児童が思いや願いを実現できたり、友達や身近な人々との関わりから自分の課題を解決したりできる学習過程が見られました。</li> <li>◆ 児童の思いや願いを受け止めて柔軟に学習計画を構築していくこと、児童同士で気付きを言葉にして伝え合ったり、それを基に自分の活動を見直したりすること、身近な人々と繰り返し関わることなどを意識して進めていくことが大切です。</li> </ul>
3 児童一人一人の思いや願いの実現の程度を把握しながら指導に生かし、自信や意欲につなげる評価を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 評価の観点を基に具体的な評価規準や評価計画を設定し、教師が児童と積極的に関わることで、児童の思いや願い、気付きについての理解を深め、評価に生かしたり、次の学習に生かしていく授業が見られました。</li> <li>◆ 活動の終末だけでなく、活動の過程でも書いたり話し合ったりする場を意図的に位置付け、それらの活動の中から、対象に対する児童一人一人の思いや願いをとらえ、教師が価値付けしていくことが必要です。</li> </ul>

## ⑥ 音 樂 (小・中)

指導の重点	「成果」(○) と 「課題改善のポイント」(◆)
1 音楽活動の基礎的な能力を培う(伸長する)指導計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現活動と鑑賞活動の一体化を図り、多様な活動を取り入れた指導計画、実践が見られました。また、学校行事と関連を図り、表現活動と鑑賞を関連付けながら年間指導計画が作成されました。</li> <li>◆ 学校行事との関連を図りつつも、指導内容に偏ることなく各内容を配置することが大切です。</li> </ul>
2 児童生徒が音楽活動を楽しみ、音楽活動の喜びを味わい、自ら進んで取り組めるような指導法を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートや視覚的な支援によって、音楽を形づくっている要素を自然に意識できるように工夫している授業が見られました。</li> <li>◆ 技能面の習得に偏ることなく、音楽を形づくっている要素を児童生徒が自覚できることが大切です。ねらいを明確にした言語活動を設定して、交流しながら豊かな表現に結びつくよう授業展開を工夫することがが望まれます。</li> </ul>
3 児童生徒一人一人の学びを支える適切な評価を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の音楽的な感受を音楽を形づくっている要素と結び付けて、そのよさを称賛したり個別指導に生かしたりする授業が見られました。</li> <li>◆ 音楽活動の基礎的な事項についてだけでなく、学習方法や一人一人の取組、学級全体の取組についても、まとめと振り返りの時間を十分に確保し、自己評価、相互評価も含めた評価を行っていくことが大切です。</li> </ul>

## ⑦ 図画工作、美術

指導の重点	「成果」(○) と 「課題改善のポイント」(◆)
1 表現及び鑑賞等の活動を通して、児童生徒一人一人に育成すべき資質や能力を明確にするとともに、個性を生かして、主体的・創造的に学習できる指導計画を作成する。	○ 表現と鑑賞のバランスのとれた指導計画、育成すべき資質や能力が明確で創造性を育む指導計画が見られました。 ◆ 自分の思いを具体的に表現する力の育成を促し、学校種接続を意識したり、学年間の見通しをもつたりして、主体的・創造的に学習できる指導計画を作成するための工夫・改善を進める必要があります。
2 児童生徒の感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わわせるとともに、自分によさを発見し、喜びをもつて創造活動に取り組むことができる授業展開に努める。	○ 用具や材料を自分の構想によって選択できることや、ICT機器の活用による技法や表現形式の提示など様々な工夫が行われ、児童生徒が目的をもって創造活動に取り組むことができていました。 ◆ 児童生徒が、よりよい表現方法を模索して、様々な方法を試すことができる授業の展開を工夫することが重要です。
3 児童生徒一人一人の自分らしさやよさを自覚し意欲的に意図的に創造活動に取り組める評価を工夫する。	○ 児童生徒が自分らしさを表現しようとする機会が設定されました。その中で各種技法を駆使して表現活動に取り組める支援も行われていました。 ◆ 児童生徒の豊かな創造活動につながり、児童生徒自身の自己肯定感が高まるような、評価方法の工夫改善をすることが必要になります。
4 校内の適切な場所に作品を展示し、日常的に鑑賞ができるように努めるとともに、事故防止のため、安全指導等を徹底する。	○ 児童生徒の作品に紹介や評価を加えたり、鑑賞のための掲示方法を工夫したりする取組が増えていました。安全管理にも、十分な配慮が行われていました。 ◆ 図工室や美術室の環境は改善されつつありますが、整理整顿の必要性を児童生徒に理解させ、実践できるようにする等の改善が重要です。

## ⑧ 体育、保健体育

指導の重点	「成果」(○) と 「課題改善のポイント」(◆)
1 12年間を見通しながら領域及び内容の取扱いを踏まえ、バランスのとれた指導計画を作成し、基礎的・基本的な内容が確実に身に付くように、体力の向上を図る。	○ 体力向上推進計画が作成され、新体力テストの結果や児童生徒の実態等を踏まえ、授業や特別活動、部活動等に生かし、学校教育全体で推進されました。 ◆ 各学年に応じた学校として計画した運動身体づくりプログラムの自校化をさらに進めるとともに、準備運動や補助運動との関連を図りながら、楽しく継続していく効果的な運動ができるように工夫する必要があります。
2 主体的な学習を通して健康を保持増進する基礎を培い、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するよう指導方法の改善・充実を図る。	○ 運動身体づくりプログラムのマンネリ化を防止するための工夫等も見られ、実践されようとしていました。また、施設や用具、場やルールの工夫、段階的な指導により、運動の楽しさを味わわせるとともに、体力の向上に努めています。 ◆ 小学校から高等学校までの12年間を見通したカリキュラムの基本戦略(4-4-4制)をしっかりと理解し、発達の段階のまとめを踏まえた指導に努める必要があります。
3 目標の実現状況を的確に把握し、指導の充実を図る。	○ 単元の指導計画や評価計画・評価方法が明確になっていました。 ◆ 本時の目標やめあとと、学習過程における評価との整合性が図られるようにする必要があります。
4 保健・安全指導の充実を図り、事故を防止する。	○ 児童生徒の健康観察は、総じてしっかりとされています。また、運動が苦手な児童生徒への言葉かけや称賛、指示等も丁寧に行われていました。 ◆ 見学者の観察や危険性のある種目・運動の場合は特に展開時にも注意深く健康観察を行う必要があります。

## ⑨ 家庭、技術・家庭

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
1 家庭生活を総合的にとらえる視点や自立的に生きる基礎を培う観点から指導計画を改善する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の実態や題材の特性等を踏まえた2年間(3年間)を見通した指導計画を作成し、指導後に実生活で実践できるように工夫された取組が行われていました。</li> <li>◆ 実生活の課題と実践について、どの時期にどんな内容と関連させて履修させるかを明確にする必要があります。</li> </ul>
2 日常の生活との関連を図り、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実生活を見つめ直し、生活の課題を主体的に捉え、問題解決的な学習や実践的・体験的な活動を取り入れた授業が行われています。また、学習形態の工夫やICT機器を活用した授業が見られました。</li> <li>◆ 単元のまとめを工夫し、家庭で実践がなされるように努めるとともに、その後の振り返りをきちんと行うよう努める必要があります。</li> </ul>
3 学習指導に生きる評価に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習活動に即した評価規準が設定され、自己評価や相互評価の場が設定されていました。自己の課題や成長を確かめることができる評価に努めています。</li> <li>◆ さらに評価の内容や方法の改善、年間や単元、一単位時間の具体的な評価計画の作成に努める必要があります。</li> </ul>
4 事故防止のため、安全管理と安全指導を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実習の指導では、衛生や事故防止について留意し、安全管理及び安全指導に配慮した授業の展開に努めています。</li> <li>◆ 生肉・生魚等を取り扱う場合は、食中毒予防のために細心の注意を払いながら授業をすることが重要です。(中)</li> </ul>

## ⑩ 外国語（英語）

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
1 3学年間を通して外国語(英語)の目標の実現を図るために、生徒や地域の実態に応じて系統的な指導計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 技能統合型の言語活動について授業者の創意工夫が見られました。生徒の実態や地域の実情に応じ多種多様な取組がなされていました。</li> <li>◆ 統合された技能が全体としてバランスのとれたものとなるよう単元や学期ごとの確認が必要です。単元指導の考え方については、具体的な評価規準設定とともに、よりよいものとなるよう今後も工夫改善に努める必要があります。</li> </ul>
2 コミュニケーション能力の基礎の育成を目指し、生徒が主体的に学ぶことができる授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元で扱う教材のよさを生かした活動が行われていました。また関連する教材を用いたり既習の学びを活用・発展させたりした授業も見られました。</li> <li>○ 言語材料の理解を意図した言語活動が充実していました。</li> <li>◆ 言語材料の理解を意図した言語活動から言語材料の活用を意図した言語活動へと発展させる単元構成や両者のバランスのとれた単元構成に改善の余地があります。活用を意図した言語活動によってこそ定着につながるとの視点での単元構想が必要です。</li> </ul>
3 指導と評価の一體化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元を通して生徒に身に付けたい力が明確になった授業が行われていました。単元(授業)の目標達成のための手立てや評価を基に次の支援が講じられた授業も行われていました。</li> <li>◆ 単元を構想する段階で、その単元で学んだことを基に何ができるかをより明確にする必要があります。「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を各校で設定し、“教科書を教える”から“教科書で教える”への転換を一層進めていく必要があります。また「書く」技能のように時間をかける必要があるものについては、他の活動とのバランスをとりながら評価し、授業改善につなげる必要があります。</li> </ul>

## ⑪ 道徳（小・中）

指導の重点	「成果」(○) と 「課題改善のポイント」(◆)
1 学校や児童生徒の実態を踏まえた実効的な指導計画を作成するとともに、学校全体で取り組む推進体制を確立する。	<p>○ 学校や学級における重点価値項目を明らかにし、全体計画や年間指導計画、学級における指導計画を作成し、日常的に改善を図っている学校が見られました。別葉の作成も各校で進められつつあります。</p> <p>◆ 重点価値項目をさらに意識した取組や別葉を基にした学校の教育活動全体における道徳教育の推進が必要です。</p>
2 道徳教育の「要」としての役割を踏まえ、道徳の時間における多様な指導方法 ・指導体制等を工夫し、道徳的実践力の育成を図る。	<p>○ 魅力ある教材を活用した展開や児童生徒の心に余韻を残す終末を工夫するなど、道徳的実践力の育成を図る取組が見られました。</p> <p>◆ 道徳教育の要として、各教科等で行われた道徳的な価値の自覚や学びを道徳の時間に教師がどのように意識しつなげていけるのかについて、さらに取組を進めることが必要です。</p>
3 家庭、地域社会等との連携を図りながら、開かれた道徳教育をさらに推進する。	<p>○ 授業参観で道徳の授業を公開する学校が多く見られました。また、保護者や地域に開かれた道徳教育となるよう学校便りや学級通信などで道徳の時間における児童生徒の思いを発信する学校も見られました。</p> <p>◆ 道徳教育を一つの視点として児童生徒の成長を同じまなざしで見ていくために、小中連携の視点も含め、今後も積極的に取り組んでいく必要があります。</p>

## ⑫ 外国語活動

指導の重点	「成果」(○) と 「課題改善のポイント」(◆)
1 外国語活動の目標と趣旨を的確に捉え、児童や地域の実態に応じて、各学年の目標を適切に定め、2学年間を通して目標の実現を図るよう指導計画を作成する。	<p>○ 各小学校において外国語活動の実践が蓄積され、それが指導計画に反映されていました。小中の円滑な接続のための情報交換も行われていました。言語材料に親しむことが着実に中学校外国語科の土台となっています。</p> <p>◆ 外国語活動教材の内容や配列がそのまま指導計画に反映されていることが多く見られました。各教科等の内容、学校行事、道徳、地域素材等の活用、2学年を通して弾力的な指導など、自校化を図った指導計画作成により、外国語活動を児童にとって一層身近なものとすることができます。</p>
2 外国語で積極的にコミュニケーションを図りながら、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や表現に慣れ親しむよう児童主体の授業を開発する。	<p>○ 「コミュニケーションの場面」や「コミュニケーションの働き」を意識した活動により、児童が「使用できた」と実感できる授業となっていました。授業が効果的に構成され、外国語の音声や基本的な表現に親しむ機会が確保されました。</p> <p>◆ 外国語の「使用」に重点が置かれ、言語や文化の違い、表現方法への気付きにまで至らない状況があります。日本と外国の言語や文化における共通点や違いなどに気付かせるといった視点からも検討していく必要があります。</p>
3 指導と評価の一体化を図る。	<p>○ どのような姿勢で学習に臨んでいたのか、どのような気付しがあったのかなど、児童の学びを言語活動の様子から的確に捉えようとする授業者の工夫が見られました。</p> <p>◆ コミュニケーション能力の素地を育むためには一過性の気付きに満足せず、単元や学期を通して見取りにより授業者のみならず児童自身が自らの成長に気付く・実感する評価も検討していく必要があります。中学校外国語科での学習到達目標の設定を視野に入れながら、外国語活動を通して育む児童像を思い描いて単元や授業、評価等を構想したり、授業を分析・点検したりすることも必要です。</p>

### ⑬ 総合的な学習の時間（小・中）

## ⑯ 特別活動 (小・中)

## (2) 各種教育

### ① 生徒指導（小・中）

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
1 自校の実態に即した具体的な指導計画に改善し、機能的な生徒指導体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自校の課題を明確にとらえ、課題解決に向けた取組を具体的に位置付けた指導計画の見直しが見られました。</li> <li>◆ 自校の課題解決に向け、SCやSSWr等との連携を図り、関係機関の有効活用も視野に入れた指導計画に改善していくことが必要です。</li> </ul>
2 教育活動全体において、すべての児童生徒に積極的な生徒指導を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業や学校行事等において、自己決定の場を設定したり、自己存在感を実感させたり、共感的人間関係を醸成したりするなど、児童生徒一人一人の思いや心情に寄り添った日常的な指導を通して、教師と児童生徒、児童生徒同士の好ましい人間関係づくりに努め、より温かい学級の雰囲気を醸成していくことが大切です。</li> <li>◆</li> </ul>
3 教育相談の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ SCやSSWrが不登校児童生徒やその保護者と面談したり、教職員へのコンサルテーションを行ったりして、各学校の課題解決に積極的に関わる取組が増えています。</li> <li>◆ 校長・教頭・生徒指導主事・教育相談担当者等が中心となり、教職員とSC・SSWrが連携を図った組織的で実効性のある教育相談体制をさらに充実させていくことが重要です。</li> </ul>
4 いじめ等の問題行動等の未然防止と早期解決に努めるとともに、問題行動発生時の的確な対応に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校いじめ防止基本方針の策定及び対策のための組織の設置が多くの学校で進み、各学校の実態に応じたいじめ防止対策の取組が推進されてきています。</li> <li>○ 日常の観察や諸調査、SC活用等による実態把握に基づき、問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に向けた取組が増えています。</li> <li>◆ 今後、各学校のいじめ防止対策が、全教育活動を通した実効性のある取組となるよう、PDCAサイクルを生かした学校いじめ防止基本方針及び組織の見直し・改善が重要です。</li> </ul>

### ② キャリア教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
1 学校や児童生徒の現状を把握し、目標を立て、課題を明確にして指導計画を作成・改善する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各校で目標を設定し、児童生徒の課題や実態を明確にした指導計画が作成されつつあります。キャリア教育の視点を踏まえた取組が行われています。</li> <li>◆ 今後はキャリア教育の視点で各取組をつないだ指導計画作成をより一層推進することで自校化を図り、各教科においてもキャリア諸能力の育成に取り組んでいくことが大切です。</li> </ul>
2 キャリア教育の推進組織・体制を確立し、共通理解に立った指導に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒指導部や教育相談部、進路指導部、各教科部などとの連携が図られ、各校の児童生徒の実態に合わせ、共通理解の下でキャリア発達を促そうとする意識が高まっています。</li> <li>◆ さらに連携を深め、キャリア教育担当者の役割の明確化と推進組織・体制の確立に向けた取組を進めるとともに、小中高の連携を大切にし、系統的な取組をしていくことが大切です。</li> </ul>
3 学校、家庭、地域社会や関係諸機関との連携を一層強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域社会の人材や企業の専門家を授業で活用したり、関係諸機関の協力の下で授業を行ったりと多様な取組が見られました。</li> <li>◆ 普段身近にいる人々との日常的な交流を通して、児童生徒が自分なりの生き方を見付けられるように、学校と家庭・地域が連携した体制づくりが必要です。</li> </ul>

### ③ 図書館教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
1 学校図書館の活用を図った指導計画を作成・改善する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語科の学習における、並行読書や発展読書の取組により、児童生徒の読書の意欲の高まりが見られました。また、市町村によっては、地域の図書館や読書ボランティアとの連携により、児童生徒の読書意欲を高める取組も多く見られました。</li> <li>◆ 教科等での学校図書館の活用が消極的であるという実態も見られたため、教科等の学習と積極的に関連を図るために学校図書館についての多様な働きという視点で見直していくことが大切です。</li> </ul>
2 蔵書や資料等の充実を図り、学校図書館の機能や役割を生かす整備充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の情報収集や学習活動に役立つ学習・情報センター、読書センターとしての学校図書館づくりに努めている学校が見られました。</li> <li>◆ センターとしての取組を充実させていくとともに、地域図書館との連携や児童生徒の声を生かした司書教諭、学校司書の活用や児童生徒への働きかけが大切です。</li> </ul>

### ④ 人権教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
1 人権を尊重する意識を高める教育を推進するための指導方法・内容を明確にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市町村の指定による取組や学校教育活動全体の中で意識的に指導を進めようとする学校が見られました。</li> <li>◆ 人権感覚の涵養に向け、道徳の時間とのより一層の結び付きや各教科等との関連を明確にし、学校教育全体においての人権を意識した指導が必要です。</li> </ul>
2 学校生活の中で人権尊重の感覚を身に付けることができるよう児童生徒のよさや可能性を尊重した指導を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常生活だけでなく、特別活動や道徳的実践の場で、一人一人のよさや可能性を大切にし、認め合える場や機会の設定を設定している学校が見られました。</li> <li>◆ まず、よさを見つけ、認めようとする態度やその基盤となる価値観を育てる指導を推進する必要があります。学級全体で互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切にする意識や態度などについての指導を通して、人権意識の基礎が芽生えるようにすることが大切です。</li> </ul>
3 指導の効果を高めるための評価を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校関係者評価等における、人権教育の項目を設ける等の工夫により、保護者が子どもに望む資質等を把握する取組が見られました。</li> <li>◆ 児童生徒の変容等を学校・保護者間で共有し、指導改善に生かすことが大切です。</li> </ul>

## ⑤ 環境教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
1 総合的・系統的な指導計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の身近にある自然環境を学習題材と捉え、効果的に活用を図ったり、総合的な学習の時間における独自の取組に結び付けたりするなど特色ある計画が見られました。中学校においては生徒会の組織として委員会を位置付けて活動を行っており、発達段階に応じた特色ある取組が行われていました。</li> <li>◆ 環境問題に主体的に関わる態度や実践力を育成するために系統性のある計画作成をさらに進めていく必要があります。</li> </ul>
2 児童生徒が主体的に考え方判断し行動できる資質や能力を高める指導方法の工夫改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域で活動する団体との連携や体験型学習施設を利用するなど地域に根ざした取組が行われていました。放射線の影響から屋外活動を制限していた時期に比べ、体験を伴う学習が増えていきます。</li> <li>◆ 地域社会や家庭との連携において身に付けたい力を明確にしたり、E S Dとの関連において育むべき力を明確にしたりすることにより、「体験」そのものから「体験から得られる学び」へと発展させることができます。この学びで得た力を、家庭や地域社会で生きる力につなげていく必要があります。</li> </ul>

## ⑥ 情報教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
1 情報化に対応した教育を推進するために、指導体制の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報機器の有用性を知るための研修会や情報化を促進するための委員会等が各学校で開催され、授業の中で、積極的に活用しようとする取組が多く見られました。</li> <li>◆ 授業のねらいを確認し、ねらいを達成するためのツールとして情報機器の活用を図る必要があります。また、教育の情報化を促進するために、研修の成果を適宜振り返り、全体計画を改善していく P D C A サイクルの確立が重要です。</li> </ul>
2 児童生徒の主体的な学習活動を支援するコンピュータ等の活用及びインターネット等の適切な利用について指導の工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コンピュータ等を利用する上でのルールやマナー、S NSを利用する上での危険性に関する情報モラルの基礎的な理解について、各学校で授業や講演会等が実施されました。</li> <li>◆ 児童生徒が、学習課題の解決のためのツールとして活用できるようにすることと、教師自身の知識、指導スキルの向上を図ることが重要となります。</li> <li>◆ 保護者にも各家庭で情報モラルの学習に取り組んでもらえるように啓発活動を推進し、学校と家庭が共に指導できるようになることが望まれます。</li> </ul>

## ⑦ 国際理解教育（小・中）

指導の重点	「成果」（○）と「課題改善のポイント」（◆）
1 学校や地域の実態に応じて、特色ある指導計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 國際理解教育の趣旨を踏まえた指導計画が作成されていました。外國語活動を軸に学年や地区で統一した内容を実施するなど特色ある取組が実施されていました。</li> <li>◆ 外国籍児童生徒への支援を機に関係機関との連携を深めたり地域人材とのつながりが意識されます。障壁ではなく、それをきっかけとして「異なる文化との出会い」という視点で国際理解教育を進めしていく必要があります。</li> </ul>
2 我が国の文化と伝統の理解に立ち、広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の伝統や文化を学ぶ機会が総合的な学習の時間を中心に設定されていました。道徳との関連においても指導計画に位置付けられています。</li> <li>◆ 地域の伝統や文化、産業等が身近なものというだけではなく、外國に向けて発信可能な意味あるものであるとの認識を深める必要があるります。人権の尊重と国際協調の精神の涵養については道徳との関連を図りながら他者理解・尊重とも関連しながら各教科等において意図的に扱い、認識を深めていくことができます。</li> </ul>
3 外国の人々との相互理解を深めるるの交流の場と機会を拡充し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ALTを中心に国際理解教育が推進されていました。</li> <li>○ 考えをまとめ、表現し、自分や他者の考えと比較検討する活動が設定されていました。同時に相手の意見を受容しつつ、自分の考えと比較させようと指導者がコーディネートする場面も見られました。</li> <li>◆ 国際理解教育は異文化理解・受容とともに自己の文化・意見発信の両面からなります。また、交流するところによる新たな価値・文化の創造も重要です。それらを踏まえ、各教科等でどのように扱い、いかに関連付けるかという視点から活動内容を工夫していく必要があります。</li> </ul>

## ⑧ へき地・小規模学校教育（小・中）

指導の重点	「成果」（○）と「課題改善のポイント」（◆）
1 児童生徒の実態を踏まえ、学校の特色及び地域の特性を生かした指導計画に改善する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育課程に地域素材や人材活用を明記した指導計画作成が進められており、特色ある教育活動が実践されています。また、少人数教育のよさを生かした取組みも進められています。さらに、児童生徒の実態を十分に把握し、実態に応じた指導計画が立てられ、児童生徒一人一人の特性に応じた指導計画が作成されています。</li> <li>◆ 小規模校同士で実践の共通化を図り、へき地・小規模校なりの学校課題を焦点化させた指導計画を作成する等の工夫が必要になります。</li> </ul>
2 児童生徒一人一人の特性を生かした教育活動を展開し、授業の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の主体的な学習態度育成に向けて、授業と家庭学習を関連させたり、学習過程や学習形態を工夫したワークシート等連絡学習に使用する学習材の準備がよくなされています。</li> <li>◆ が語活動の充実に取り組む学校が増えていますが、活動そのもののが目的になつてゐる場合が多く見られます。思考力・判断力・表現力等を育成する視点で、目的を持つて活動できるように教師の関わりを改善する必要があります。</li> </ul>
3 児童生徒の自己実現を図る評価を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 評価規準の設定と活用により、指導と一体化した評価に努めています。また、児童生徒の自己評価や相互評価が工夫され、学びを実感させる評価が行われていました。</li> <li>◆ 今後は、授業の過程や終了時に、児童生徒のどのような姿を目指すのかを教師、児童生徒が相互に明確にし、評価していく必要があります。</li> </ul>

## ⑨ 健康教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
<p><b>【保健】</b>            1 保健学習・保健指導の充実を図り、健康を保持増進するための実践力を育成する。            2 健康相談・個別指導の充実を図り、個別の健康課題解決のために支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自校の健康課題を明確にし、発達段階に応じて指導するとともに、児童生徒が主体的に活動できる指導方法の工夫に努めていました。また、学校保健委員会の活動を推進し、学校全体で継続的、組織的に取組を行っていました。</li> <li>◆ 長期休業中の継続した取組と家庭との更なる連携を図る必要があります。</li> <li>○ 自校の健康課題について学校全体で共有化し、課題解決に向けた目標を明確にして組織的に取り組んでいました。また、個別の健康課題については、個々への通知や健康相談の充実に努めしていました。</li> <li>◆ 学校・家庭・地域が一体となった健康教育活動の推進が必要です。また、学校保健委員会の組織を更に効果的に機能させる必要があります。</li> </ul>
<p><b>【安全】</b>            安全指導の充実を図り、危険を予測し、回避する能力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 震災の教訓から、地震・火災発生時などのマニュアルの見直し・改善が図られていきました。また、避難訓練等では、保護者引き渡し訓練や二次災害を想定した訓練、抜き打ち訓練、地域と一緒にした訓練等が実施されました。</li> <li>◆ 今後も、学校の実情に応じた避難訓練を工夫するとともに、訓練の実施後はマニュアルの有効性を評価し、見直しを行うことで、実効性のあるものへと改善していくことが必要です。</li> </ul>
<p><b>【食育・学校給食】</b>            「ふくしまっ子食育指針」に基づき、「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒と保護者への「早寝・早起き・朝ごはん」の推進を図るとともに、栄養教諭とのティーム・ティーチングによる食に関する授業の実践に努めています。</li> <li>◆ 給食の時間における食育をより一層推進するとともに、食育推進コーディネーターを中心とした学校全体で共有化を図り、指導の充実に努めること、また、家庭の理解と啓発を図ることが大切です。</li> </ul>

## ⑩ 防災教育（小・中）

指導の重点	「成果」(○) と「課題改善のポイント」(◆)
<p>1 児童生徒が主体的に行動する態度を身に付けるための計画の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自校の防災等マニュアルの見直し・改善が図られ、安全に関する学習や指導、訓練等が行われていて、学校が増えてきました。また、引き渡し訓練などの計画を作成し実施している学校が増えてきました。地域を巻き込んだ防災体制づくりと訓練が重要となります。また、詳細なマニュアルだけではなく、ワンペーパーですぐに対応できるマニュアルの作成も望まれます。</li> <li>◆ 教育課程に位置付けた計画的かつ継続的な防災教育とともに、地域を巻き込んだ防災体制づくりと訓練が重要となります。また、詳細なマニュアルだけではなく、ワンペーパーですぐに対応できるマニュアルの作成も望まれます。</li> </ul>
<p>2 児童生徒が状況に応じ、主体的に考え判断し行動する態度や能力を高めるための指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校安全計画等に沿って、各教科や総合的な学習の時間、特別活動などにおいて、災害等についての知識を学ぶとともに訓練が実施されています。</li> <li>◆ 訓練においては、マンネリ化を防止するとともに、県から配付された「防災教育指導資料」を活用し、学校や児童生徒の実態、地域の実情に応じた訓練や教科等で学んだことを生かすなど、更なる工夫が必要です。</li> </ul>
<p>3 安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高める指導を工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼稚園との合同訓練を行ったり、家庭・地域と連携して防災マップを作成したりするなど、地域の中で防災に取組む意識を高めている学校が見られました。</li> <li>◆ 自分の身の回り、地域の実態や様子を把握し、自らの安全確保の仕方や方法・対応などの意識を高めていく指導が大切です。また、児童生徒も地域社会の一員として、社会貢献や社会参加ができる場を持つてもらうよう発達段階に応じて指導計画に位置付けていくことが望まれます。</li> </ul>

## ⑪ 放射線教育（小・中）

指導の重点	「成果」（○）と「課題改善のポイント」（◆）
1 学校や地域の実状及び児童生徒の実態に応じた指導計画及び指導内容を工夫し、実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校の実状や児童生徒の実態、発達段階に応じて、学級活動や理科を中心に2時間から6時間程度放射線教育が行われたり、養護教諭とチーム・ティーチングにより指導したりする実践が見られました。</li> <li>◆ 放射線に関する学習内容の広がりをもたせるため、教科や領域等との横断的な関連を図り、計画的に指導していく必要があります。</li> </ul>
2 放射線等の基礎的な性質について身に付けさせ、自ら考え、判断する力を育む指導法を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県教育委員会の「平成25年度放射線等に関する指導資料（第3版）」や文部科学省の「放射線等に関する副読本」などをもとに、放射線教育の授業が実施されました。</li> <li>◆ 地域や学校の実態に即して、各種指導資料等の活用とともに、外部人材の活用等についても検討する必要があります。</li> </ul>
3 放射線から身を守り、健康で安全な生活を送ろうとする意欲と態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校の実状や児童生徒の実態、発達段階を踏まえて指導内容の重点化を図り、「放射線等に関する知識を得るために学習内容」と「放射線等から身を守るために内容」の両面から指導を展開されました。</li> <li>◆ 学校や地域等の状況に応じて自ら考え判断し、行動できる児童生徒の育成を教育活動全体で更に充実していく必要があります。</li> </ul>